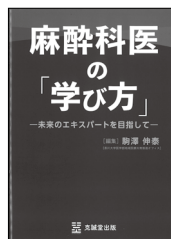




書 評

麻酔科医の「学び方」 —未来のエキスパートを目指して—

駒澤 伸泰・編



駒澤伸泰先生は現在、香川大学医学部地域医療
共有推進オフィス特命教授を務めている。本書で
はその立場から、麻酔科専門医を取得する前後に
おける学び方と、学び方改革のための医学教育理
論についてまとめている。現在まで麻酔科医に関
連した医学教育書籍は見当たらず、本書が初めて
の書籍といえる。

第1章は専門医になるまでの学び方であるが、
学ぶ側も教える側も意識改革が必要であり、何は
ともあれ、臨床現場でのアクティブラーニングが
最も大事である。それとともに指導医とのコミュ
ニケーションで意識すべき学び方と注意点につい
てもさりげなく書き加えられ、また、指導医側に
なったときに意識してもらいたいことも記述され
ている。「症例」の振り返り（デブリーフィング）
は麻酔科専門医取得への王道中の王道であること
は、特に強調されている。ほかにも、学会発表と
学術誌への投稿に向けての注意点、二次救命処置
講習会の受け方、シミュレーションの学習を臨床
へ還元するために意識すべきこと、超音波ガイド
下神経ブロックの学び方、困難気道管理の学び
方、超音波ガイド下中心静脈穿刺の学び方、ペイ
ンクリニック短期研修の学び方、緩和医療短期研
修の学び方、集中治療短期研修の学び方、心臓血
管外科麻酔の学び方、小児麻酔の学び方、産科麻
酔の学び方、麻酔科外勤における学び方と心得、

超高齢者麻酔の学び方、麻酔科専門医試験へ向け
た学び方など18項目について、実にわかりやす
く、うなずかされる内容が満載である。

第2章は専門医になってからの学び方である。
「多職種協働、生涯学習を意識する」というテーマ
で、手術室看護師との連携の学び方、外科医との
連携の学び方、研修医や後期専門研修医の指導法
を学ぶ意義、持続可能な勤務のための休息・マイ
ンドフルネスの意義への理解、手術室管理の学び
方、術後管理チーム育成のポイント、看護師特定
行為研修のポイント、救急救命士指導のポイント、
鎮静医療安全教育のポイントなどが含まれて
いる。それぞれの項目は経験豊かな若手の著者が
担当し、加えて駒澤先生は、それらの項目に関し
て大切なことをコラム欄として、うまくまとめて
おられる。

本書が麻酔科医に関連した医学教育書籍として
広く普及されれば、麻酔科教育の未来は実に明る
いものと感じる次第である。

(JR 東京総合病院 花岡一雄)

A5 判, 160 頁

2024 年 9 月, 4,200 円+税

克誠堂出版

